

一般社団法人

Japanese Society for
Information and Systems in Education

教育システム情報学会 ニュース・レター No.252



一般社団法人
教育システム情報学会

発行日 2025年01月15日

発行所

一般社団法人

教育システム情報学会

発行者 小松川 浩

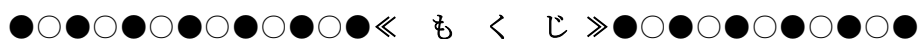
〒162-0801

東京都新宿区山吹町358番地5

アカデミーセンター

URL <https://www.jsise.org>

E-MAIL secretariat@jsise.org



| | |
|--------------------------|------------------------|
| 第50回 全国大会開催案内・・・・・・・・・・2 | 支部報告・・・・・・・・・・16 |
| 第50回 全国大会企画セッション | 広報からのお知らせ・・・・・・・・19 |
| テーマ募集・・・・・・・・・・3 | 他団体 協賛・後援イベントのお知らせ・・20 |
| 博士論文紹介募集・・・・・・・・・・5 | 国際会議のご案内・・・・・・・・21 |
| 特集号論文募集・・・・・・・・・・6 | 会費納入のお願い・・・・・・・・22 |
| 合同英文誌 ITEL 論文募集・・・・・・・・8 | 事務局より・・・・・・・・・・24 |
| 第3回研究会開催報告・・・・・・・・11 | 会員専用ページの案内, |
| 第4回研究会開催報告・・・・・・・・12 | 入会のご案内, |
| 研究会報告年間購読案内・・・・・・・・14 | 新入会員のご紹介 |
| 過年度刊行物の【半額】での販売・・・・15 | |





第 50 回 全国大会のご案内

担当者： 全国大会委員会

全国大会開催 50 回にあたる 2025 年度全国大会の開催日と開催場所の予定が決まりました。

<https://taikai2025.jsise.org/>

開催日（予定）： 2025 年 8 月 30 日（土）～ 9 月 1 日（月）

開催場所（予定）： 早稲田大学（早稲田キャンパス）

<https://www.waseda.jp/>

ぜひご参加をご検討ください。大会の詳細は随時 Web サイト等でご案内いたします。

■ 会場外観



写真提供：早稲田大学

■ アクセス

<https://www.waseda.jp/top/access/waseda-campus>

<交通手段>

- JR 山手線 高田馬場駅から徒歩 20 分
- 西武鉄道 西武新宿線 高田馬場駅から徒歩 20 分
- 東京メトロ 東西線 早稲田駅から徒歩 5 分
- 東京メトロ 副都心線 西早稲田駅から徒歩 17 分
- 都バス 学 02（学バス） 高田馬場駅 - 早大正門
- 東京さくらトラム（都電 荒川線） 早稲田駅から徒歩 5 分



第 50 回（2025 年度）教育システム情報学会全国大会 企画セッション テーマ募集のご案内

教育システム情報学会 全国大会委員会
委員長 國宗 永佳

企画セッションは参加者にとって関心が高く、より詳細な研究テーマに焦点をあてたセッションです。以下のようにテーマを公募いたします。奮ってご応募ください。テーマが採用された方はオーガナイザになっていただき、発表募集の広報やプログラム作成、セッションの実施を行っていただきます。なお、お申し込みいただいた内容にしたがって全国大会委員会プログラム部会で審査をし、採否を決定させていただきますので、ご了承ください。

企画セッションの講演原稿のフォーマット、投稿方法、1 スロットあたりの発表数（3～4 件の発表で構成）、講演時間等は一般セッションと同じです。ただし、オーガナイザの裁量で 1 スロットにつき講演 1 件分を議論の時間にあてることができます（3 件の発表＋議論とすることができます）。セッションの時間帯やスロット数は、大会プログラム作成時に全国大会委員会大会プログラム部会にて講演申込み数や全国大会全体の構成に応じて決定いたします。講演申込みは大会 Web の講演申込みサイトより、一般から公募いたします。また、企画セッションでの発表も大会奨励賞の対象となります。

企画セッションのテーマは一般セッションよりも特化したテーマに焦点があてられていることが望まれます。テーマご提案の際には、一般セッション講演募集用のカテゴリ表を参考にしてください。

■オーガナイザにご担当いただく事項

- 発表募集の広報（企画セッションの概要は全国大会 Web ページに掲載されます）
- 企画セッションのプログラム（発表順）の決定
発表申し込み数によっては、一部の発表を一般セッションに移動する必要があります。
その際、オーガナイザには一般セッションに移動する発表を決定していただきます。
- 座長の選定
原則としてオーガナイザが座長をご担当ください。セッションが複数になった場合は、各セッションの座長を異なるオーガナイザで担当していただきます。
- 当日のセッション運営

■お申し込み方法

以下の項目をご記入の上、全国大会委員会プログラム部会（taikai-pc-ml@jsise.org）宛まで電子メールにてお申し込みください。

※送信後に投稿が保留された旨のメールが自動的に届きます。それとは別に後日受付の連絡をさせていただきますので、お待ちください。

- テーマ（企画セッション名）
- 概要（400 文字程度）
- テーマが該当するカテゴリ、分野（カテゴリ表より選択、多くて 2～3 個を目安としてください）
- テーマが該当するキーワード（カテゴリ表中のキーワード）

- テーマ独自のキーワード
- オーガナイザ全員の氏名と所属、代表者の連絡先（電子メールアドレスなど）
※オーガナイザは教育システム情報学会会員に限ります。

■ 申込期限

2025年2月14日（金）（2025年2月21日（金）までに採録結果を通知いたします）

《カテゴリ表》

| 議論観点 | カテゴリ | 分野名 (発表時にはここだけ選択してもらいます プログラム編成においてセッション名として使います) | キーワード (分野選択時の参考に使ってください。 ただし、各分野の発表はこれらに限るものではありません) | |
|------------|------------|---|---|---|
| 支援対象 | 設計 | 授業設計・インストラクショナルデザイン | 授業研究、学習理論、教育方法、カリキュラム・デザイン、授業評価、授業実践、シラバス、研修設計 | |
| | | 学習環境デザイン | デザイン研究、学習科学 | |
| | 教育・学習手法 | 遠隔教育 | | 通信教育、国際交流、交流学習、異文化交流、オンライン授業 |
| | | ブレンド学習 | | 反転授業、eラーニング授業利用 |
| | | 連携型教育 | | 小中連携、中高連携、高大連携、大学間連携、科目間連携、地域連携、産学連携 |
| | | 協調学習 | | コミュニティ支援、コミュニケーション支援、グループ学習、ディスカッション支援 |
| | 分析・評価 | アクティブラーニング | | 作問学習、PBL、クリッカー、アイデアソン、ハッカソン、ルーブリック、サービスマーケティング、テキストコミュニケーション、社会人基礎力、反転授業、体験学習 |
| | | 学習者特性・行動分析 | | ポートフォリオ、アフェクティブラーニング、質的分析、学習履歴分析、レディネス、生体情報、レスポンス分析、教学インスティテュショナル・リサーチ(IR)、質問行動、尺度開発 |
| | 対象別教育 | 学習評価・アセスメント | | リフレクション、ルーブリック、テスト理論、質的評価、適応型テスト、数理モデル、ピアアセスメント、グループワーク評価、パフォーマンス評価、項目反応理論、所見による評価 |
| | | HRD・生涯学習 | | リカレント教育、社会人教育、企業内教育/研修、異文化理解 |
| | | 高等教育 | | キャリア教育、質保証、リメディアル、初年次教育、ファカルティ・ディベロップメント(FD)、研究活動支援、ティーチングポートフォリオ、チュータートレーニング、教養教育、教職課程 |
| | 領域別教育 | 初等中等教育 | | 言語活動、教科指導、授業実践、教師教育、情報モラル、一人一台タブレット環境 |
| | | | | |
| | | プログラミング教育 | | アルゴリズム理解、ビジュアルプログラミング、プログラミング言語教育、オブジェクト指向教育、ロボットプログラミング、WebAPI |
| | | 情報技術教育 | | ネットワーク教育、データベース教育、組み込みシステム教育、モデリング教育、システム要件定義、技術者倫理教育、ソフトウェア開発教育、IoT |
| 語学教育 | | | 日本語学習、外国語学習、聴解学習、発話学習、作文教育、読解教育、語彙・単語学習、文法教育、エッセイライティング、例文検索 | |
| 教科教育 | | | 教科情報、数学、国語、理科、社会、音楽、美術、技術・家庭科 | |
| 特別支援教育 | | | インクルーシブ教育、LD、ADHD、発達障害、院内学級、身体障害、知的障害、視覚障害、言語障害 | |
| スキル学習 | | | 身体知、経験知、学習スキル、メタ認知、問題解決支援、批判的思考、自己調整学習 | |
| 医療・看護・福祉教育 | | | カウンセリング、ボランティア、介護、理学療法、保育、作業療法、スポーツ医学 | |
| 情報リテラシー | | | プレゼンテーション支援、コンピュータ操作、情報倫理、セキュリティ、情報モラル、情報スキル、クラウドサービス活用 | |
| 技術 | ICT活用 | 防災教育 | レジリエンス、リスクマネジメント、災害情報、意思決定、災害心理、疑似体験、避難訓練、災害アーカイブ | |
| | | | | |
| | 技術開発・運用 | マルチメディア活用 | | 映像・音声配信/収録/活用、電子教科書、電子黒板、プレゼンテーションドキュメント |
| | | ソーシャルメディア活用 | | ソーシャルブックマーク、SNS、BLOG、マイクログラフ、チャット |
| | | デバイス活用 | | モバイル、タブレット、ユビキタス、ウェアラブル、ヒューマノイドロボット、IoT |
| | | プラットフォーム活用 | | LMS、eポートフォリオ、CMS、テレビ会議システム、コンテンツ共有 |
| | 先進的学習支援技術 | プラットフォーム開発 | | LMS、CMS、プラグイン、CSCL、eポートフォリオ、eテストング、API、データフォーマット、デバイス、テレビ会議システム、クラウド利用 |
| | | インフラストラクチャ | | 認証、ネットワーク構築、センサネットワーク、クラウド、セキュリティ、システム連携、仮想化、データ運用管理、教材データベース、BYOD |
| | | コンテンツ作成支援 | | コンテンツ・オーサリング、カリキュラム・オーサリング、コンテンツ自動生成、SCORM、LOM、問題作成支援 |
| | その他 | 先進的学習支援 | | AI(人工知能)、アフェクティブコンピューティング、エージェント、機械学習、情報検索、適応的支援、ナビゲーション支援、リフレクション支援、情報推薦、ゲーミフィケーション、外在化支援、抽象化支援、知識マップ、生成AI |
| 分析技術 | | | テスト理論、データマイニング、ラーニングアナリティクス、ビッグデータ | |
| モデリング技術 | | | メタ認知、学習科学、学習者モデル、認知ツール、数理モデル、ドメインモデリング | |
| その他 | ユーザインタフェース | | 仮想現実(VR)、拡張現実(AR)、HCI、視線入力、ヘッドマウントディスプレイ(HMD)、ジェスチャー入力、3D、可視化、センサーデバイス、音声入力、シミュレーション、マイクロワールド、擬人化技術、アウェアネス、テレプレゼンテーション、力覚情報、ヒューマノイドロボット | |
| | その他 | その他 | | |



「博士論文紹介」の原稿募集について

担当者： 学会誌編集委員会委員長 松浦 健二（徳島大学）

学会誌のコミュニティ・プラザ「博士論文紹介」は2021年より、各巻のNo. 3（7月1日発行）に集約をし、博士論文の紹介を総覧できる形式へ移行しました。複数の博士号取得者を一同に紹介することで「博士号取得者の研究テーマの動向を読者の皆様が一目で把握できる」「博士取得者同士が互いを知る機会として、交流を深めるきっかけとなる」などのメリットがうまれることを期待しております。

年1回に集約したことにより、寄稿依頼を年度末前後の3～4月頃とし、本誌や学会のニュース・レターなどを通じて、募集をいたします。お近くに博士号取得者や、今後学会誌掲載時に博士号取得予定者がいらっしゃいましたら、ご本人または、指導教員の立場によらず、以下の教育システム情報学会誌編集委員会担当委員のメールアドレスまで、お気軽に情報提供いただけますと幸いです。

2025年7月1日発行予定となります学会誌Vol. 42, No. 3につきましては、【2025年4月18日(金)】を原稿締切の予定とし、募集を行ってまいります。

執筆に際しては、博士論文紹介原稿用の執筆要領&原稿テンプレートをご利用ください。原稿および必要事項の提出に関してはGoogleフォームを用いて行うようにいたします。下記URLよりご利用ください。

スケジュール

原稿締切： 2025年4月18日(金)（予定）
学会誌掲載： 学会誌Vol. 42, No. 3, 2025年7月1日発行（予定）

執筆要領および原稿提出

執筆要領&原稿テンプレート：

https://docs.google.com/uc?export=download&id=1ncrIREcS_hf_2cjlPhuI0GZV1ag47aF

原稿提出（Googleフォーム）：

<https://forms.gle/s6apsfhhxetLsvRJ9>

問い合わせ等

問い合わせ先： 教育システム情報学会誌編集委員会 担当委員 山元 翔（近畿大学）

E-mail: yamamoto@info.kindai.ac.jp

（「@」の部分は、半角の「@」に変えて下さい）



2026 年度発刊 特集論文募集

担当者： 学会誌編集委員会委員長 松浦 健二（徳島大学）

Vol. 43, No. 2 学会誌 特集「高度な対話による先進的な教育・学習システム」

論文投稿締切：2025 年 6 月 1 日（日）（予定）

2026 年 4 月 1 日 発行（予定）

大規模言語モデルに代表される生成 AI は、自然言語を介した対話型の AI システムとして急速に発展しており、あらゆる分野、領域に対して、きわめて大きく不可逆的なインパクトを与えつつあります。もとより教育システム情報学分野においては、CAI や ITS における対話システムをはじめとして、「人と機械の対話」あるいは「機械による対話の促進」などの観点による教育・学習システムは深い関心を集めてきたテーマであるといえます。一方で、教育・学習という営みにおいて、学習者と教授者、学習者同士などによるさまざまな形での対話は、授業設計、学習支援、その他さまざまな教育・学習のデザインにおいて、教育・学習の効果を高めるための重要な要素として扱われ、これに関するさまざまな研究や実践的知見が蓄積されてきたものと思われま

す。これらをふまえ、本特集では、教育・学習場における「高度な対話」をできる限り広く捉え、対話型生成 AI の教育・学習への先進的な活用・実践をはじめ、対話に基づく協調的な学習に関連する教育・学習システムや学習環境の構築あるいはその教育実践、または仮想空間上での対話的教育・学習などに至るまで、高度な対話に基づく教育・学習システムの発展にまつわる論文を幅広く募集します。

1. 対象分野

対話型生成 AI の教育・学習への先進的な活用・実践、対話に基づく協調的な学習に関連する教育・学習システムや学習環境の構築あるいはその教育実践、仮想空間上での対話的教育・学習、その他さまざまな観点において、高度な対話に基づく教育・学習システムの発展にまつわる論文を幅広く募集します。

2. 論文種別

すべての種別（一般論文、実践論文、ショートノート、実践速報）の論文を募集いたします。なお、査読を通して、異なる種別での採録となる場合があります。また、内容により一般投稿論文としての掲載へ変更する場合があります。

3. 投稿要領

教育システム情報学会学会誌原稿執筆要領に準じます。詳細は教育システム情報学会の Web サイト上の「学会誌投稿のご案内」でご確認ください。投稿に際しては「特集」への投稿であることを明示して

いただきます。また、特集論文研究会（2025年3月15日開催予定）で発表を行った方は、特集論文研究会での発表題目と発表番号も明示いただく予定としております。

4. スケジュール

論文投稿締切：2025年6月1日（日）【予定】

採録通知予定：2025年12月初旬まで【予定】

学会誌掲載：学会誌Vol. 43, No. 2, 2026年4月1日発行【予定】

5. 特集論文研究会について

本特集と同一テーマの研究会「特集論文研究会」を以下の通り開催します。希望者には、**本特集への論文投稿のための閲読**も行います。本特集への投稿をお考えの方は、是非ご検討ください。

詳細は、特集論文研究会のWebページをご覧ください。

(https://www.jsise.org/research_society/2024_cfp_special/)

《特集論文研究会の日程等》

開催日時：2025年3月15日（土）（第6回研究会と同時開催）

開催場所：東北大学

発表申込締切：2025年1月23日（木）

原稿提出締切：2025年2月12日（水）

《特集論文研究会における閲読コメントについて》

特集論文研究会ではご希望の発表者に対して論文投稿に向けてご参考頂く閲読コメントをお渡ししております。閲読コメントをご希望頂いた場合は、原稿ファイルアップ時に、論文の要点と論文の意義として学会誌原稿執筆要領第2項の投稿論文の各種別における、新規性、有用性、信頼性の観点に照らした論文の主張点を、投稿システム上のフォームに入力して頂く必要があります。また、通常より長めの20分の質疑応答時間が割り当てられます。

6. 特集論文編集委員会

委員長：松浦 健二（徳島大学）

副委員長：後藤田 中（香川大学）

筆頭幹事：高木 正則（電気通信大学）

幹事：近藤 伸彦（東京都立大学）、山元 翔（近畿大学）、
林 佑樹（大阪公立大学）、白澤 秀剛（東海大学）

幹事補佐：吉原 和明（近畿大学）、油谷 知岐（香川大学）

委員：学会誌編集委員

7. 問い合わせ

全般：近藤 伸彦（東京都立大学） E-mail: kondo@tmu.ac.jp



Information and Technology in Education and Learning (ITEL)

論文募集 [<https://www.j-itel.org>]

日本教育工学会 (JSET) との合同英文誌 ITEL (Information and Technology in Education and Learning, <https://www.j-itel.org>) への掲載原稿を募集しています。この ITEL では、我が国における教育工学・教育システム情報学の国際的な発信力を強化するとともに、国際的な共同研究・研究交流のプラットフォームになることを目指しています。研究対象は、教育システム情報に関連した領域全般はもちろん、様々な教授学習場面のための方法・技術に関する基礎研究・開発研究・実践研究等も含まれます。ITEL は、J-STAGE をプラットフォームとしたオープンアクセスジャーナルです (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/itel/list/-char/ja>)。投稿後、原則、7 か月以内に 2 回の査読が終了するように配慮しています。短期間で、革新的な研究成果、ユニークな実践等を世界に向けて発信するために活用していただければ幸いです。学位取得を目指されている方や留学生のみなさんからのご投稿もお待ちしております。

- 論文種別： 一般論文 (Regular Paper, 基本 8 ページ) ,
実践論文 (Practice Paper, 基本 8 ページ) ,
システム開発論文 (Development Paper, 基本 8 ページ) ,
ショート論文 (Short Paper, 基本 4 ページで最長 6 ページまで)
<これまでのショートノート (Short Note) と実践速報 (Report on Practice) を含みます>
- 投稿締切：1 年中投稿を受け付けています。
- 投稿要件：
 - 論文は他学会において査読中でないこと、そして、その主要部分が未発表であること。ただし、国際会議、学会の大会、研究会等で口頭発表した内容をまとめたものは投稿することができます。
 - 投稿者は本会会員である必要はありませんが、本会会員あるいは JSET 会員である場合には掲載料に会員の価格が適用されます。投稿者が 2 名以上の連名の場合は、そのうち少なくとも 1 名が会員であれば、掲載料に会員価格が適用されます。
- 原稿執筆要領：ITEL Web サイトに、執筆要領 (Author Guidelines) 等がアップされています。
- 投稿方法：< [ITEL 電子投稿システム] https://iap-jp.org/j-itel/journal_e/ >
 - ITEL Web サイト上から、電子投稿システムにログインして投稿を行って下さい。
 - 初めて電子投稿システムを利用する場合は、まず利用者用 ID の発行手続きを行って下さい。
 - 投稿論文は、論文執筆用テンプレートファイルを用いて PDF ファイルに出力して提出して下さい。
 - 投稿論文は、投稿前にできるだけ英文校正 (Proofreading) を受け、証明書提出を推奨しています。
- 査読方法：
 - 投稿論文の査読は、JSiSE 英文誌と同様に、シングルブラインド制で行われます。
 - 査読者は 2 名で、査読回数は 2 回となります (著者照会は 1 回のみ)。
 - 評価項目は、Originality (新規性)、Usefulness (有用性)、Reliability (信頼性)、Presentation (明瞭性) の 4 項目となり、JSiSE 英文誌と異なり、査読中に投稿論文の種別変更はありません。
 - 投稿者の希望に基づき、JSiSE 英文誌と同様、日本語で査読コメントを受けることもできます。

| | |
|---------------|---|
| Editorial | Preface to Volume 4: Evolving Personalized Learning Environments Hidenobu Kunichika, Hiroki Oura |
| Invited Paper | Intelligent Technologies for Personalized Practice Systems Peter Brusilovsky |
| | Personalized Learning Environments -Core Concepts, Technologies and Practices Heinz Ulrich Hoppe, Rwitajit Majumdar, Hiroaki Ogata |
| | Formative Assessment and Meaningful Learning with Concept Mapping through Recomposition Tsukasa Hirashima |
| Regular Paper | Lack of Visual Information Implicitly Inhibits Interactivity of Virtual Discussion: The Effects of Video Presence Ryosuke Onoda, Nanako Uemura |
| | Evaluation of AI-Generated English Reading Comprehension Questions by Japanese Teachers of English Alexander Maas, Toru Nagahama, Tatsuya Horita |
| Short Paper | The Effectiveness of Situational Confirmation in Remote Verbal Communication Kaito Takashima, Yuki Yamada |
| Translation | The Effect of Proactive Behavior on Competence Improvement in a Workplace through Reflection: A Focus on Young Workers in the 20s Satoshi Tanaka, Megumi Ikeda, Ryohei Ikejiri, Tomoyuki Suzuki, Kaede Kido, Yusuke Tsuchiya, Ryo Imai, Yuhei Yamauchi |
| | The Relationship between Children's Listening Ability, Its Influencing Factors, and the Children's Academic Ability in Science Takeshi Miyauchi, Chiharu Kogo |

| | |
|-------------|---|
| Translation | Qualitative Study on the Promotion of Experiential Learning and Reflective Support Intended for Mid-level Employees by Managers Who Balance Organizational Performance with Employee Development Chiaki Hiromatsu, Shigeto Ozawa |
|-------------|---|

注：Translation は，日本教育工学会論文誌に掲載された論文の一部を英訳したものです。



2024 年度 第 3 回研究会開催報告

担当者：三好康夫（高知大学），安間文彦（サイバー大学），小西達裕（静岡大学）

■テーマ：学習の動機付け支援／一般

■開催日：2024 年 9 月 28 日（土）

■会 場：高知大学朝倉キャンパス（高知県高知市）

■概 要：

2024 年度第 3 回研究会は、9 月 28 日（土）に「学習の動機付け支援／一般」というテーマで、高知大学朝倉キャンパスにて開催されました。午後には企画セッションとして、教育システム情報学会 50 周年記念イベントの記念講演を行いました。記念講演の様子は、Zoom を用いてリアルタイムで配信いたしました。講演者には、本学会の前身である CAI 学会の設立から教育システム情報学会を長年支えてこられた矢野米雄先生（徳島大学名誉教授、本学会名誉会員）にご登壇いただきました。

発表件数は 8 件で、36 名の方々にご参加いただきました。記念講演はさらに約 20 名の方々がオンラインでご視聴されました。どの発表も非常に活発な議論が行われておりました。また、研究会終了後の情報交換会には矢野先生も含め 12 名（とお子様 1 名）が参加され、高知の美味しい名物料理をいただきながら、有意義な意見交換を行うことができました。

発表者や参加者の皆様のご協力により、円滑に研究会を進行することができました。この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。

■発表タイトル：

- オンライン学習における締め切り間際の行動と先延ばし特性に関する分析
- 学生への修学支援を目的とした LMS 連携機能を持つ習慣化支援アプリの開発
- LMS を活用した e-Learning に対する高い動機づけ維持のための取り組み
- 態度学習のためのマンガ教材ストーリー設計フレームワーク案
- 学習内容の整理活動としてキットビルド概念マップの効果：数学学習における構造的要約と比較してオンライン留学における ICT 活用の現状と課題
- PBL のためのファシリテータの育成に向けた支援を行うシステムの提案
- PBL 授業実践の現状と課題ーベテラン教員インタビューからの一考察ー
- 子ども向けまちづくり体験活動「こどものまち」における学修フィードバックシステムの運用と運営課題





2024 年度 第 4 回研究会開催報告

担当者：柏原昭博，松浦健二，長谷川忍，曾我真人，小尻智子

- テーマ：AI 時代における学習支援システムデザイン
- 開催日時：2024 年 11 月 9 日（土）
- 開催場所：電気通信大学 100 周年記念ホール
- 発表件数・参加者：8 件・30 名

■概要：

2024 年度第 4 回研究会が 11 月 9 日（土）に電気通信大学 100 周年記念ホールで開催されました。本研究会は、学会創設 50 周年記念として四国支部との合同企画として実施されました。当日は、「AI 時代における学習支援システムデザイン」のテーマのもと、8 件の研究発表、2 件の企画が行われ、30 名の参加者があり、大変活発な意見交換、議論が交わされました。

研究発表では、テーマである AI を活用した学習・教育支援に関する研究や実践が報告されました。

特に、生成 AI を用いた教材作成、誤りの顕在化、議論の活性化、学習リソース拡張などに関する興味深い研究成果について発表があり、どの発表も AI 時代における新しい学習・教育支援のあり方を考える上で有益な内容で、質疑応答も盛り上がりました。

また、今回の研究会では研究発表以外に、産学連携委員会企画としてオフィシャルパートナーである 2 つの企業のご紹介が行われました。加えて、会場校である電気通信大学に新たに導入された先進的ハイブリッド eDX 教室の見学会が実施され、ハイブリッド講義支援機能としてテレプレゼンスロボットやハイブリッドデスクトップなどのデモンストレーションがなされ、参加者の皆様にも大変好評でした。なお、eDX 教室については、学会誌 Vol.41, No.4 の解説⁽¹⁾に詳細が掲載されています。



最後に、合同企画となる四国支部での講演会⁽²⁾（「持続的な情報社会の教育システムを考える ～情報 I と人材育成の観点から～」）は 11 月 23 日（土）にハイブリッド形式で開催される。

■発表タイトル：

- ・ 学びの構成原理に基づく自動発話分析手法の提案
- ・ 鉄道車両運転における探索的注視行動に対するリアルタイムフィードバック
- ・ 講義ロボットロールによるバイアスが学習者の学びに与える影響
- ・ LLM を活用した学習支援システムの設計と実現可能性についての考察～基本情報処理技術者試験を題材として～
- ・ L-VEIGe: 誤答画像生成による英語語彙学習支援システム – 認知的忠実性に基づく定量評価モデルの提案とデータセットの構築 –
- ・ TRIZ 学習支援ツールとしての ChatGPT ベース・AI チャットボットの可能性
- ・ オープンエンドな学びを指向した学習リソース拡充手法と歴史探索学習支援システム
- ・ 先行オーガナイザーに基づくスライド 3 面提示による講義理解支援

■企画セッション

- ・ 産学連携委員会企画：オフィシャルパートナー紹介
- ・ 電気通信大学教育 DX ハイブリッド教室デモ（電気通信大学西 9 号館 2F）

■参考文献

- (1) 柏原昭博, 島崎俊介: 遠隔学習者と対面学習者をつなぐ先進的ハイブリッド教室のデザイン, 教育システム情報学会誌, Vol. 41, No. 4, pp. 293-302 (2024)
- (2) 四国支部講演会: 「持続的な情報社会の教育システムを考える ～情報 I と人材育成の観点から～」, <https://shikoku.jsise.org/event/conference>



研究会報告年間購読の申し込みについて

研究会報告は、2016年度からは印刷媒体での研究会報告は廃止し、オンライン上でタイムリーかつオンデマンドな閲覧が可能となるように、研究会報告を電子化しています。保管などの手間もなく、大変便利に活用できるようになっております。

是非、研究会報告の「年間購読」のお申し込みをご検討いただければ幸いです。研究会当日も電子媒体として販売する予定ですが、年間購読がお得になっております。

- ・年間購読:4,000円（定例研究会年6回，特集研究会1回，計7回分を含む）
- ・当日販売:1冊1,000円

新規での「年間購読」申込みにつきましては、年会費をお支払いいただく前に会員種別変更申込をお願いします。以下の手順でお申し込みください。すでに年間購読をいただいている方は手続き不要です。

- 1) 年会費納入手続きの前に、下記フォームにて事務局 (secretariat@jsise.org) まで年間購読申込をしてください。

=====
※研究会報告年間購読希望
会員番号（お分かりであれば）：
お名前：
所属：
連絡先 e メールアドレス：
=====

- 2) 手続き終了後、事務局より会員種別変更完了のご連絡を差し上げます。
- 3) マイページから年会費と合わせて年間購読費をお支払いください。

※年会費納入後に「年間購読」を申込みご希望の場合は、事務局 (secretariat@jsise.org) までご連絡ください。年間購読の請求書をお送りし、会員種別変更の手続きを進めさせていただきます。



JSiSE の過年度刊行物の【半額】での販売について

教育システム情報学会では、2024年41巻1号以前に発行された過年度刊行物の在庫を整理することになりました。これに伴い、現時点で在庫があるものについては定価の【半額】でお譲りいたします。ただし送料は購入者様にてご負担をお願いいたします。

本会が公式に販売する最後の機会です。ぜひ購入をご検討ください。

対象となる刊行物および販売価格は次の通りです。なお、販売開始時点で在庫がないものもごさいます。ご注文いただいた順に手続きをいたします。万が一在庫切れの際にはご容赦くださいますようお願いいたします。

1. 【紙媒体】教育システム情報学会誌 1冊あたり定価 3,300円→1,650円（税込）1995年12巻1号から2024年41巻1号
2. 【紙媒体】The Journal of Information and Systems in Education（英文誌）1冊あたり定価 3,300円→1,650円（税込）2002年1巻1号から2010年11巻1号
3. 【紙媒体】教育システム情報学会 研究報告 1冊あたり定価 1,100円→550円（税込）1996年度第2回から2015年度第7回
4. 【CD-ROM】教育システム情報学会 研究報告 1枚あたり定価 1,100円→550円（税込）2017年度第1回から2019年度第5回
5. 【紙媒体】教育システム情報学会全国大会講演論文集 1冊あたり定価 6,600円→3,300円（税込）2003年度第28回，2005年度第30回

ご注文は以下の URL よりお願いいたします。

<https://forms.gle/i9tpbn3EiMNWJP8W6>

お問い合わせは、刊行物の販売・管理委託先である毎日学術フォーラム(maf-sales***navi.jp)までお願いいたします。メール送信時には***をアットマークに置き換えてください。

販売に直接関係しないその他のお問い合わせは、学会事務局までお願いいたします。

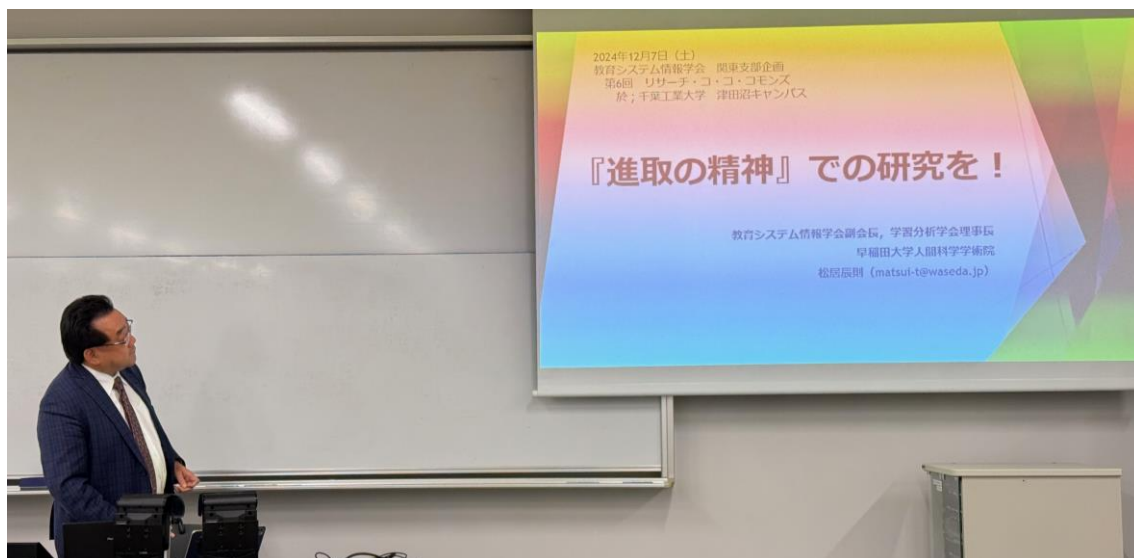
関東支部より活動報告

第6回リサーチ・コ・コ・コモンズ開催報告

担当者： 教育システム情報学会関東支部

関東支部では、連携（collaboration）による新たな学びの共創（co-creation）を実現するためのイベント「リサーチ・コ・コ・コモンズ」を、2024年12月7日（土）に千葉工業大学にて開催致しました。第6回となる今回は、第5回まで同様に「自身の研究の魅力を再発見する」ために「良い点」を積極的に褒めていくという形式に「リサーチクエスチョンを説明する」という要素を取り入れたテーマで開催し、関東地区から18名（学生11名・教員7名）の参加がありました。

冒頭に、関東副支部長の放送大学・辻靖彦先生より趣旨説明があり、その後、二部構成で実施しました。第1部「ベテラン研究者からのメッセージ」では、基調講演として、早稲田大学の松居辰則先生が「『進取の精神』での研究を！」というタイトルで講演してくださいました。進取の精神について、松居先生ご自身が学生の際にどのようなことを考えられていたかという話や、松居研究室の哲学に至るまで語ってください、まさに先人の意志を受け継ぎ、困難に挑むという精神を若手に伝授する内容でした。



第1部「ベテラン研究者からのメッセージ」の様子

第2部では「魅力 Aware / Share / Deeper セッション」と題して、参加学生による4セッション合計11件の研究紹介が行われ、それぞれの研究の良い点、発表者本人も気付かないと思われる発展や応用の方向性について、積極的な議論がなされました。通常の研究会とは異なる「褒めて（研究を）伸ばす」、
「褒めて（自分自身が）伸びる」というコンセプトの下での議論に、参加者一同が苦戦しつつも、ポジティブな雰囲気の中セッションが進行しました。さらに、今回初めて試みたリサーチクエスチョンを説明することについても、普段以上に自身の研究を認識する良い機会になったように思います。また、席上で

のご意見もそれ以外のご意見も、「研究について面白い点」「発表者も気づいてないであろう発展性」「その他」の項目に分けられ、後日、コメントシートという形で全ての発表者にフィードバックされました。

コメントシートの記述（一部抜粋）

| |
|---|
| <p>Q1 この研究について面白い点とと思った点は？</p> <p>(A1-2)大変面白いコンセプトとと思いましたし(私も耳が痛いですが)あまり研究ができてない大学教員にも適用できそうと思いました。また、理論武装を行っていくことから、使っていくうちに批判的思考や論理的思考の育成にもつながるかもしれないと感じました。</p> <p>(A2-1)外国人か日本人かで英会話へのエンゲージメントが変化するなどといったことはなんとなくあると感じられるため、そこに着目してより良いロールを考えるという点がとてもおもしろいと感じた。外国人ロールを使用することで良い結果が得られた場合、既存の英会話支援システムの効果向上に寄与できる可能性がありとても有意義だと感じます。</p> <p>(A2-2)従来のプログラム演習では動けばそれで終わりだし、自分の中だけでの作業になっていた所、「より良いコード」を実現させるために、点数化・可視化やランキングによる相対化を行う仕組みは興味深い。</p> <p>(A2-3) 学習者の能力に依存せず、自分の誤りを探索できることが良いと思いました。学習内容に対する理解が進みにくい学習者の方でも自力で効果的な学習をすることができるので、家庭内での学習に特に効果的だと思います。</p> |
| <p>Q2 発表者本人も気づいていないであろう、この研究の発展・応用の方向性や可能性はありますか？</p> <p>(A1-1) 部品という一定の粒度に分割しているため、学習者が誤っている際のフィードバックがやりやすい。特に、ボトムアップにシステムを触ってもらうとして、応用問題で行き詰まった際に、どの部品が獲得できていないかをシステムが診断可能になる。</p> <p>(B1-1) 人間（教員）の感覚で教授していたことを、定式化・抽象的操作構造に落とし込んで、プログラミング行きつまり箇所を研究対象としているところ。作問学習システムに応用できる？</p> <p>(B2-2) 自分が教員だからそう感じるのかもしれませんが、質問者と回答者が出た質問の価値を的確に判断できる枠組みがあれば、ゼミや研究会等のイベントにおける支援も考えられる気がしました。また、東本先生が仰った「良い質問とは何か。誰がどのように評価するのか」は大変本質的な問いだと思いますので是非とも検討をフォーカシングを重ねていただけたらと思います。コメントまで。</p> |
| <p>Q3 その他の質問・コメント</p> <p>(A1-3) 聞き逃したかもしれないのですが、伝達度と伝達感はそれぞれどう測るのですか？ またなぜピアノを対象としたのですか？</p> <p>(B1-2) 「初心者目線での」RQが挙げられるといいですね（「どのような…」5W1Hをつかって）</p> <p>(B2-1) 相川さんのシステムや教材を見て、Phet（フェット：https://phet.colorado.edu/ja/）というコロラド大学が運営している理数系科目におけるシミュレーション教材を公開しているwebサイトを思い出しました。</p> <p>(B2-3) とても分かりやすいプレゼンで(柏原研の学生さんにはいつもそう感じておりますが)スライドもとても視覚的に分かりやすかったです。今後ますますのご発展を楽しみにしておりますし、学生研究発表会や全国大会でのご発表もぜひご検討いただきたいです。</p> |



第2部「魅力 Aware / Share / Deeper セッション」の様子

今回、ご講演・ご発表いただきました皆さま、及びご参加いただきました皆さまに厚く御礼申し上げます。今後も関東支部では、学生の育成および教育実践の現場との連携を視野に入れた学術イベントの企画実施を進めていきたいと考えております。

◇第1部：ベテラン研究者からのメッセージ

- ・基調講演：松居 辰則 先生(早稲田大学) 「『進取の精神』での研究を！」

◇第2部：魅力 Aware / Share / Deeper セッション

(A1-1) 中学数学の関数分野における解法の構造理解と部品の知識の獲得・再利用を指向した学習支援システムの開発

内山裕太 (千葉工業大学 東本研究室)

(A1-2) 研究理解を促進する生成 AI を用いたフィードバックデザイン

板倉啓二 (電気通信大学 柏原研究室)

(A1-3) スキル習得時の熟達のモデル化及び力覚デバイスを用いた教育支援

小笹滯 (早稲田大学大学院 松居研究室)

(A2-1) 英会話におけるロボットロールのデザイン

羽切亜美 (電気通信大学 柏原研究室)

(A2-2) プログラミング学習におけるより良いコードの記述を促す学習支援フレームワークの提案

前田新太郎 (千葉工業大学大学院 東本研究室)

(A2-3) 力学 EBS における差分観察及び解答とふるまいの対応付けを通した誤り箇所探索支援システム

Jean Paul Pierret Robles (千葉工業大学 東本研究室)

(B1-1) プログラミングの文章問題における問題解決過程を活用した学習支援システムの開発

白髭虹輝 (千葉工業大学大学院 東本研究室)

(B1-2) 多視点的アプローチによる人の内面的要因と第一印象形成との関連性のモデル化

榎本尚輝 (早稲田大学 松居研究室)

(B2-1) 誤りの可視化システムにおける学習者の誤りに適応的な部分問題の自動生成フレームワーク

相川野々香 (東京工芸大学大学院 片上研究室 指導教員：東本)

(B2-2) ChatGPT との対話を通した質問力育成支援の枠組みの検討

阿部颯斗 (早稲田大学 松居研究室)

(B2-3) プレゼンテーション動作のセルフレビュー促進を目的とした競争ロボットシステム

高桑奏太 (電気通信大学 柏原研究室)

広報からのお知らせ



ニュースレター発行回数変更のお知らせ

2024年度より、ニュースレターの発行は年4回となります。研究会の開催時期と異なるため、今後は、年間スケジュールおよび開催報告のみの掲載となります。開催案内と講演募集につきましては、学会 Web サイトでご確認ください。



X (Twitter) アカウントの紹介

2016年8月下旬より、全国大会開催に合わせて学会の公式 X (Twitter) アカウントを開設しました。本アカウントは原則として当学会の広報を目的とした配信専用としております。本学会へのご質問・お問い合わせは、学会事務局 (secretariat@jsise.org) へお願いします。

<https://twitter.com/JsisePr>



Facebook ページもご覧ください

教育システム情報学会の公式 Facebook ページを運用しています。本ページでは、論文・発表募集や本学会に関連するイベントの情報などをお届けしています。ぜひ、ご覧下さい。

Facebook ユーザの方は、ぜひ、「いいね」をお願いいたします。

<https://www.facebook.com/jsise.org/>

X (Twitter)、Facebook への情報掲載の依頼などは学会事務局 (secretariat@jsise.org) までお問い合わせください。



他団体 協賛・後援イベントのお知らせ

後援：「九州大学第2回データ駆動イノベーション推進本部 デジタル社会創造研究部門シンポジウム～デジタル社会における幸福感～幸せの測り方と支え方～」

日時：2025年3月4日(火) 13:00～16:00

会場：九州大学 西新プラザ 大会議室 (ハイブリッド形式)

後援：「情報メディア教育研究センターシンポジウム 2025」

日時：2025年2月25日(火) 13:30～17:00

会場：法政大学 市ヶ谷キャンパス 外濠校舎 S306



国際会議のご案内

- 2025 年 4 月開催

ICIET:2025 13th International Conference on Information and Education Technology

開催期間 : April 18-20, 2025

開催地 : Fukuyama, Japan

URL: <https://www.iciet.org/index.html>

- 2025 年 7 月開催

AIED 2025 26th International Conference on Artificial Intelligence in Education

開催期間 : July 22-26, 2025

開催地 : Palermo, Italy

URL: <https://aied2025.itd.cnr.it/>



会費納入のお願い

学会の運営は皆様の年会費で支えられております。今年度の年会費が未納の方はご入金をお願いいたします。なお、10月以降に年会費が未納の場合、学会誌の送付が一時休止されます。入金確認後、入金日の翌月末までに今年度内の未送付分も合わせて学会誌の送付を再開いたします。3月末までに入金を確認できない場合は、未送付分の学会誌はお送りできなくなりますので、お早めにお手続きをお願いいたします。

URL <https://bunken.org/jsise/mypage/Login>

※会員専用ページのURLは、会員情報管理システムの業務委託をしている株式会社国際文献社のものです。

- 「銀行振込」をご希望の方は、下記のいずれかの口座へお振込みをお願いいたします。

■振込先

◆ゆうちょ銀行

口座記号番号：00180-6-709632

加入者名：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ：シャ)キョウイクシステムジョウホウガックイ

※他金融機関からゆうちょ銀行に振込む場合

銀行名：ゆうちょ銀行（金融機関コード：9900）

店名：〇一九 店（ゼロイチキョウ店） 預金種別：当座 口座番号：0709632

名義：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ：シャ)キョウイクシステムジョウホウガックイ

◆三菱UFJ銀行（金融機関コード：0005）

店名：上新庄支店（カミシンジョウ支店）

預金種別：普通 口座番号：0142708

名義：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ：シャ)キョウイクシステムジョウホウガックイ

◆みずほ銀行（金融機関コード：0001）

店名：茨木 支店（イバラキ支店）

預金種別：普通 口座番号：1399483

名義：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ：シャ)キョウイクシステムジョウホウガックイ

- 請求書・領収書（支払い後）は、マイページでオンライン発行できます。
- 請求書・領収書の郵送をご希望の方は、事務局（secretariat@jsise.org）までご連絡ください。

※団体名でお振込みいただきますと、個人を特定できない場合がございますので、振込名に会員番号またはお名前をご入力いただくか、難しい場合は、振込内容を事務局までご連絡いただければ幸いです。
※所属が変わった方は、マイページにログインした際に、連絡先などを変更するようお願いいたします。

【過年度年会費を支払われていない方へ】

マイページでは、全ての年度の未納金額を合算した金額が請求されます。先に本年度以前の分のお支払いを希望される方は、先に郵送された払込用紙付請求書をご利用になるか、学会事務局（secretariat@jsise.org）までご連絡下さい。

※会費のお支払いが確認できない場合、学会からの送付物を停止させていただく場合があります。また、会員資格停止の手続きを進めさせていただく場合があります。

ご不明な点は、事務局（secretariat@jsise.org）までお問合せ下さい。

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター
Tel:03-6824-9376 Fax:03-5227-8631 Email : secretariat@jsise.org



事務局より



会員専用ページのご案内

URL : <https://bunken.org/jsise/mypage/Login>

※会員専用ページの URL は、会員情報管理システムの業務委託をしております株式会社国際文献社のものです。

■会員専用ページでは、以下のことができます。

1. 会員個人ページでの、現在の登録情報の確認・変更
2. 年会費納入状況の確認
3. 会費の納入、クレジット/コンビニ決済
4. パスワードの変更

会員種別、フリガナ、研究報告年間購読の登録等はマイページでは変更できませんので、お手数ですが JSiSE 事務局会員窓口 (secretariat@jsise.org) までご連絡をお願い致します。

ログインには、ID とパスワードが必要です。

パスワードをお忘れになった場合は、上記ウェブサイトにて照会できます。何かご不明な点がございましたら、JSiSE 事務局会員窓口 (secretariat@jsise.org) までご連絡ください。

今後とも教育システム情報学会の活動にご理解ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



入会のご案内

入会をご希望の方は、下記のサイトよりオンライン入会申込フォームにアクセスしていただき、お申し込みをお願いいたします。

URL : <http://www.jsise.org/admission/index.html>

☆キャンペーン☆

※現在、本学会開催の研究会等で、会場にて新規お申し込みいただいた方には、
入会金を無料にさせて頂くというキャンペーンを行っております。
そちらも、合わせてご案内いただきますようお願いいたします。



新入会員のご紹介

下記の 10 名の皆様が新しく入会されました。(2024 年 9 月 26 日～2024 年 12 月 26 日)

本学会での益々のご活躍を期待しております！

| 会員名 | 会員種別 | 会員名 | 会員種別 |
|--------|----------|--------|----------|
| 畔津 忠博 | 正会員 | 小川 修一郎 | 正会員 |
| 野原 留美 | 正会員 (購読) | 二木 恵 | 正会員 |
| 小酒井 亮太 | 正会員 | 中谷 陽仁 | 正会員 (購読) |
| 藤澤 修平 | 学生会員 | 金泉 理恵 | 正会員 |
| 八百 秀憲 | 学生会員 | 中村 文紀 | 正会員 (購読) |